

誰かに教えたくなる 科学技術の話 87

人類の歴史を左右した 「城壁」



東京大学名誉教授 月尾 嘉男

漫画家諫山創いさやまはじめの漫画『進撃の巨人』は一八言語に翻訳されて約一八〇カ国で出版され、世界で一億四〇〇〇万部以上発行されている大作である。内容は突如出現した巨人に攻撃されて滅亡の危機に直面し、三重の城壁の内側で生活している人間の社会を描写した内容であるが、人類の歴史には様々な理由で構築された巨大な城壁が数多く存在する。今回は歴史に登場した有名な城壁を紹介する。

イエリコの城壁

中東にある死海の北西のヨルダン川西岸域にあるイエリコは現在人口二万人強の都市であるが、すでに紀元前一万年には存在していた世界最古の都市とされ、『旧約聖書』の『ヨシヤ記』にも登場する。紀元前八〇〇〇年から七〇〇〇年にかけて高さ四メートル、厚さ二メートルの世界最古の石壁が集落の周囲に建造され、当時では世界最高の高さ八・五メートルの石塔も建造されていた。

以後、この場所は民族の興亡の歴史の舞台となる。紀元前七三七〇年頃に放棄されて外部の民族が定住するが、その民族も紀元前五八五〇年頃に撤退して無人の場所となる。さらに紀元前三三〇〇年

頃に外部から到来した民族が再建するが、その一〇〇〇年後に侵略によって廃墟となった。再度、紀元前一九〇〇年頃に再建され、集落は石壁の外側にも発展して都市は維持されてきた(図1)。

歴史は一気に二十世紀になり、一九四八年にトランスヨルダン首長国の領土となるが、一九六七年に中東戦争によってイスラエルが占領した。一九九四年にはオスロ合意によってパレスチナ自治政府に移譲されたが、周囲は完全にイスラエルが支配し、住民は外部との往来が制約



図1 イエリコの遺跡

された状況で生活している。一万二〇〇〇年にもなる中東地域の複雑な民族事情を象徴する空間である。

万里の長城

万里の長城にもイェリコの城壁に匹敵する三〇〇〇年以上の歴史がある。群雄割拠であった古代中国の各国は発展していくとともに周辺の民族との軋轢に遭遇するが、この外部からの攻撃を防御するために城壁が建設されたのは紀元前四〇〇年頃を起源とする春秋時代である。その時代の燕、趙、秦の三国は北方の遊牧民族の南下を阻止するため、それぞれ防壁を建設していた。

それらを連結して万里の長城にしたのが紀元前三世紀に中国の初代皇帝となった秦の始皇帝である。南下してくる北方の遊牧民族の攻撃から領土を保全するため、三国がそれぞれ建設していた城壁を接続して延長し、東側は朝鮮半島に到達するほどの長大な城壁を実現した。始皇帝の死後、北方の匈奴が南下して長城の一部は放棄されるが、紀元前二世紀の武帝の時代に再度、延長される。

以後は中国の王朝の勢力によって北方の民族との関係は一進一退となるが、十

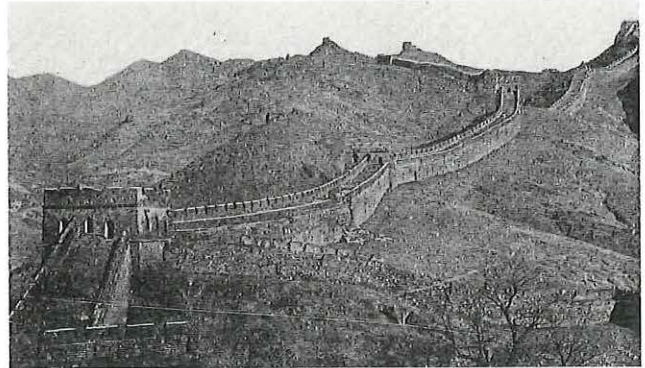


図2 明代の万里の長城

四世紀に成立した明の第三代皇帝永楽帝の時代に北方のモンゴルが強力となったため、再度、長城が建設され、構造も強固になっていった(図2)。現在、残存している長城の延長は六二六〇キロで世界遺産になっているが、日本列島の南北の距離の三〇〇キロと比較すると、いかに長大であるかが実感できる。

ハドリアヌスの長城

ローマはロムルスとレムスの双子の兄

弟が紀元前七五三年に建国した都市国家が起源とされるが、以後、急速に領土を拡大し、地中海沿岸からヨーロッパ大陸中部まで支配する大国になる。一世紀には現在のイギリスの領土であるブリタニアに進出し、スコットランドの南側まで到達する。当然、先住民族が反撃して行くが、それを防御するために構築されたのが二本の長城である。

まず一七七年にローマ帝国の第一四代皇帝となったハドリアヌスが一二二年から約一〇年をかけてイングランドとカレドニア(スコットランド)の境界に、東側の北海から西側のアイリッシュ海まで**ハドリアヌスの長城**を建設した(図3)。幅員は約三メートル、高さは五、六メートルで、延長は一一八キロになり、六キロ間隔で要塞が配置され、それぞれに一



図3 ハドリアヌスとアントニヌスの長城

〇〇〇人近い兵士が駐留していた。

この完成から一〇年後の一四二二年から第一五代皇帝アントニヌスは約一〇〇キロ北側に延長六〇キロの**アントニヌスの長城**を構築したが、先住民の攻撃に対抗できず、二〇年が経過した第一六代皇帝アウレリウスはこの長城を放棄し、ハドリアヌスの長城まで撤退した。さらにローマ帝国の衰退とともに長城は放棄され、石材は住宅などに利用され、現在では一部が残存しているにすぎない。

豊臣秀吉の御土居

西欧の城壁は都市全体を防御するのが一般であるが、日本でも戦国時代後期に**惣構**という名称の都市全体を防御する防壁があつたものの、大半の城壁は天守のある城郭を守護するために構築されてきた。しかし日本にも、都市全体を防御する城壁が建設された事例が京都に存在する。一五八二（天正一〇）年の「本能寺の変」で織田信長が自害すると、しばらくは全国各地で動乱が発生していた。

それらを鎮圧した豊臣秀吉は一五八五（天正一三）年に京都の中心部分を防御するため「**御土居**」という土塁と掘割を

構築する事業を開始する。範囲は南北八・五キロ、東西三・五キロ、全長二二・五キロで、京都と諸国を連絡する街道の出発地点である場所以外の道路は閉鎖した。一例として五条大橋（現松原橋）は撤去されている。以後、御土居の内側が洛中、外側が洛外ということになる（図4）。

御土居は一五九一（天正一九）年に数ヶ月間で実現したが、秀吉が一五九八（慶長三）年に死亡して徳川の時代になると役割は減少、御土居が道路を分断している部分は撤去され、洛内と洛外を連絡する出口が新規に二十ヶ所以上開設されている。さらに明治時代になり、幕府の土地が民間の所有になって御土居は破

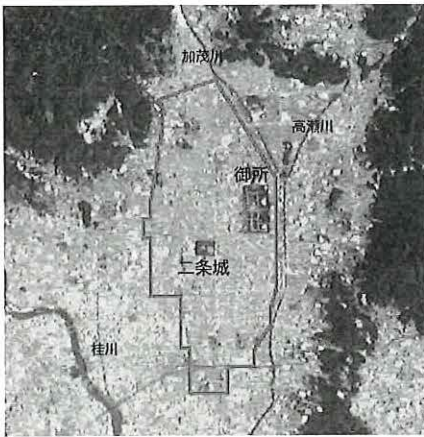


図4 御土居

壊されてきたが、一九三〇年に史跡に指定され一部が保存されている。

ベルリンの壁

ベルリンは数奇な運命を経験してきた都市である。ベルリンが都市として誕生したのは十三世紀とされ、一四一五年に神聖ローマ帝国の皇帝からニュルンベルク城伯F・フォン・ホーエンツォレルに譲渡され、一四八八年にベルリンに宮殿が建造された。以後、一七〇一年に成立したプロイセン王国の首都、第一次大戦後に成立したワイマール共和国の首都としてヨーロッパの重要都市となった。

しかし、一九三九年に開戦された第二次世界大戦がベルリンの地位を変化させた。一九四五年にA・ヒットラーの指揮したナチス・ドイツが降伏、一九四九年に東西ドイツに分割され、東ドイツ領内となったベルリンも東西に二分された。東側はドイツ民主共和国（東ドイツ）の首都、西側はアメリカ、イギリス、フランスが分割統治し、ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の首都はボンに設置された。

当初は東西ベルリンの往来は自由であったため、東ドイツの国民がベルリン経由で西ドイツに頻繁に脱出し、東ドイツ



図5 ベルリンの壁

政府は一九六一年に東西ベルリンの境界を封鎖し、その境界線上に「**ベルリンの壁**」を建設した(図5)。しかし一九八九年にベルリンの壁が崩壊、九〇年に東西ドイツが統一、九一年にベルリンは統一ドイツの首都と決議され、二〇〇一年五月に首都機能が完全に移転した。

アメリカ・メキシコの壁

アメリカとメキシコには日本列島の南北の距離三〇〇〇キロに匹敵する三―四五キロの国境があり、相当部分が無人地



図6 ティファアナの壁 (左:アメリカ 右:メキシコ)

帯であるため、メキシコから多数の人々が違法に流入してくる状態にあった。アメリカへの不法移民は年間一〇〇〇万人以上で、メキシコからの移民が四割で最大である。これは違法に人間が侵入してくるだけではなく、麻薬も流入してくるため深刻な問題であった。

そこで二〇〇五年に、D・ハンター下院議員が国境の約三五%に相当する一二三キロに壁を建設する法案を提案し、一部修正されたものの翌年に成立した。

アメリカではメキシコからの移民の安価な労働で維持されている産業も多数あるという理由以外に、野生動物の往来を阻止するなど環境問題の視点からの反対もあったが、二〇一〇年頃から建設が開始されるようになった(図6)。

二〇一七年に就任したトランプ大統領は選挙公約で壁の建設を提示して実施してきたが、親子の隔離収容や子供への性的虐待などの問題、当初から懸念された野生動物の生息への影響や地下水脈の破壊などの問題、先住民の遺跡の破壊の問題なども発生している。大局かつ長期の視点からは人間の行動は自然環境へ問題をもたらしてきたが、それが短期に凝縮された巨大事業である。

人間社会には物理的な壁と精神的な壁が存在する。しかし今回紹介したように宗教や思想や欲望などを起因とする精神的な壁が結果として物理的な壁を発生させてきたとすれば、人間社会から壁が消滅することは期待できないどころか、人口が増加していくに比例して壁も増加すると推定される。この基本問題の解決は困難にしても、壁の本質を理解することは人間にとって重要な課題である。